

カッコソウの保全活動

齋藤 陽一（カッコソウ協議会 事業運営部会長）

カッコソウは、地球上で桐生市及びみどり市の鳴神山周辺にのみに生育するサクラソウ科の植物で、絶滅の危険性が高い種である。カッコソウの生育数の減少については、群馬県山田郡誌（昭和 14 年 3 月発行）に「その分布区域甚だ狭く、且梅田、川内両村の一部は鳴神山登道に当たれるを以て、参詣者に濫採せられ方に絶滅せんとする状態なり、今にして保護の途を講ぜざれば、この稀有の天然記念物は永遠に吾等の郷土と離別するに至らん。地方有志の一考を希ふ。」という記載があり、70 年以上前からその存続が危ぶまれていたことがわかる。そして、このカッコソウの保全活動は、長い間、群馬県山田郡誌の言葉を借りれば、“地方有志” による活動が中心となり行われてきた。

平成 24 年 5 月、カッコソウが絶滅の危険性が最も高い種として、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（通称：種の保存法）」により国内希少野生動植物種に指定され、その保全は緊急を要するものだと示された。そこで、市民団体や個人が中心となって、個々に実施してきたカッコソウの保全活動に、行政も積極的に参加し、「カッコソウをこの世から消滅させないため」により効果的で包括的な対策を実施することを目的として、平成 26 年 4 月 26 日にカッコソウ協議会が設立された。

この協議会には、地元行政、市民団体としては今までカッコソウの保全に関わってきた桐生市及びみどり市の市民団体、個人の方々、学識者、地元高等学校等が会員となっている。

表 カッコソウ協議会の主な会員

所属	主な会員
行政	群馬県，桐生市，みどり市
団体	5 団体
教育機関	桐生高等学校生物部
学識者	京都大学教授，東邦大学助教授及び講師 地元学識者 1 名
地域住民及び協力者	3 名

本協議会の活動は、「生物学的手段によりカッコソウそのものを残すための保全活動」と「意識啓発するための保全活動」の 2 つにより、カッコソウの絶滅回避を目指している。また、カッコソウの保全は、長期にわたることから、具体的な活動は、設立時に策定した「カッコソウ保全計画」の中で明記されている項目ごとに実施時期や実施内容を決め活動を行っている。

具体的な活動内容としては、平成 26 年度は、カッコソウ生育状況の調査や生育環境の植物の調査、鳴神山への登山者を対象としたチラシ配布による啓発活動やパトロールなどを中心に実施した。平成 27 年度では、平成 26 年度実施の事業に加え、所属団体が管理する移植地の開花期に合せた啓発活動、桐生市・みどり市の小学 4 年生への啓発下敷きの配布、小学校での環境教室などを行った。また、ぐんま緑の県民税を活用した事業として、地域の自然環境への理解を深めてもらうため、森林をテーマとした観察会も 4 回実施した。

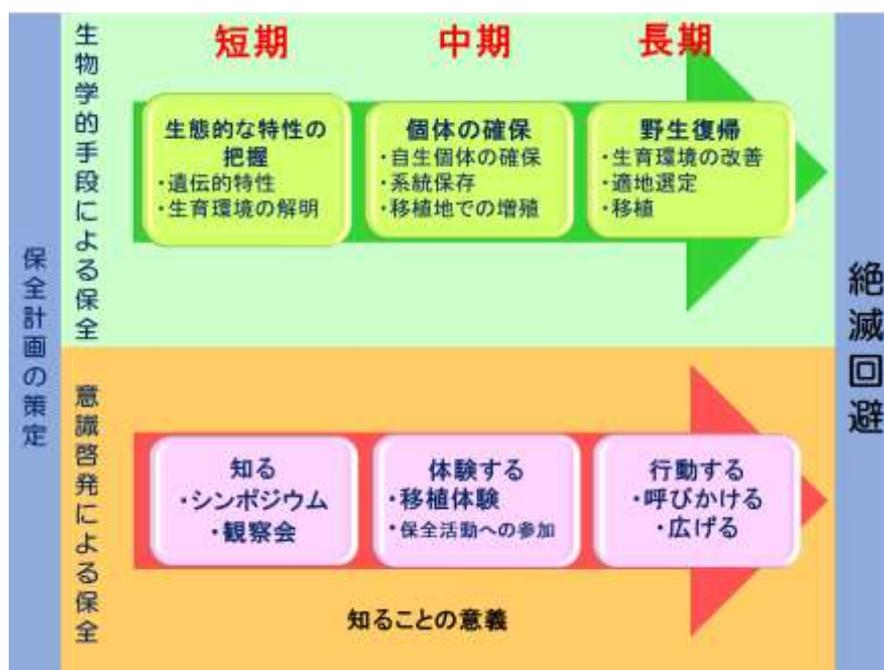


図 カッコソウ協議会の取り組みイメージ

本協議会は、様々な立場の方が会員となっており、それぞれの団体の方向性や活動内容も様々である。協議会の役割は、これら団体等のカッコソウ保全にかかわる活動に一定の方向性を示し、個々の活動の連携や法律的な事務手続き等を担っていくべきだと考えている。現在、協議会という組織は立ち上がったが、保全の取り組み方法には、多くの課題があると考えている。①カッコソウだけを守ればよいということではなく、他種を含めた生育環境の維持・改善が必要となり、数年という単位ではなしえない。②国内希少野生動植物種に指定されていることから、保全活動を進める上で法律的な手続きが必要。③野生復帰や遺伝子の維持・確保など、その手法は検討を重ねていく必要がある、このためには、専門的な知識を持つ学識者の指導を得ながら慎重に進めていくことが必要不可欠等である。今後、協議会としてこれらの課題に取り組んでいくためには、一般の方にもわかりやすく具体的な時期や手法を示した実行計画を示すことが必要であると考えている。